

種子法廃止後の日本に起きると予想されること

遺伝子組み換えトウモロコシをネズミに与え続けると。。



遺伝子組み換えとうもろこしをネズミに与え続けた結果、発ガン率が上昇。

巨大腫瘍を発生させたマウスの姿は「他人事」ではなく、人間の将来の姿でもある。

GM 食品を食べ続けて人体に影響が出るのは、ラットの寿命で換算すると、なんと10年後なのです。

つまり、遺伝子組み換え作物を無節操に食べていると、あなたの身体に巨大な腫瘍ができる可能性があるし、高確率で癌になる。

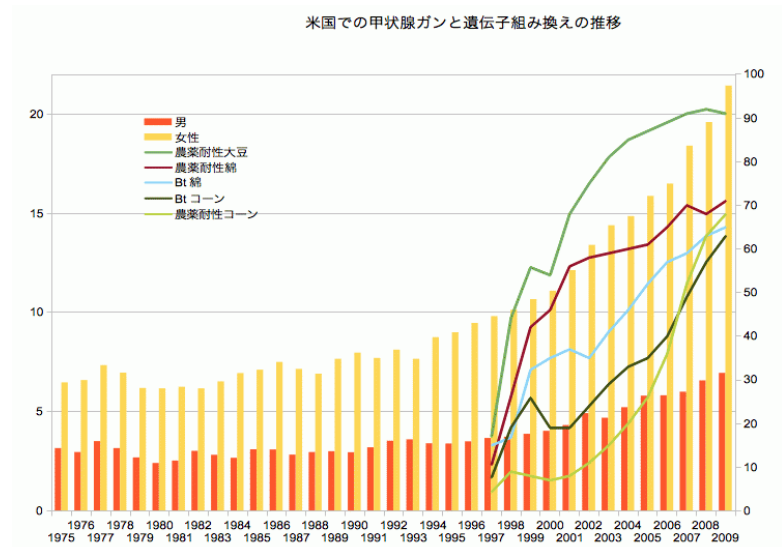
米国で急増する慢性疾患

米国での甲状腺ガンと遺伝子組み換えの推移

現実に遺伝子組み換え食品の割合が非常に高い米国では**遺伝子組み換え食品の出現と共にガン、白血病、アレルギー、自閉症などの慢性疾患が急増しています**。この事実だけから遺伝子組み換えの有害性を断言できるわけではないですが、危険の可能性は十分指摘できるでしょう。

水俣病のケースでもチソが垂れ流す水銀が水俣病の原因であることは指摘されていたにも関わらず、必然性が証明されない、として対策が見過ごされ多くの人が苦しめ、環境が汚染される結果を招きました。

遺伝子組み換えと健康被害の結果が完全に立証される頃にはもう取り戻せない状況になっている可能性があります。そうする前に危険を避ける必要があります。



93%の妊婦から殺虫毒

妊娠した女性の93%、80%の胎児から有毒成分(Cry1Ab)が検出されたという調査結果が2011年にカナダで発表された(Bt toxin found in human blood is not harmless)。

この研究を行ったのはシェルブルック大学病院センターの産婦人科の医師たちだ。彼らは30人の妊娠女性と39人のまた子どもを持っていない女性から血液のサンプルを調査した。遺伝子組み換え経緯の有害物質が93%の妊娠女性の血液(30人のうち28人)から検出され、80%の女性(30人のうち24人)の臍帯血からも検出された。妊娠していない女性のケースは69%(39人のうち27人)。**この毒素は遺伝子組み換えトウモロコシを飼料とした家畜の肉や牛乳、卵などを食べた結果と考えられる。**

遺伝子汚染

いったん作られてしまった遺伝子組み換え作物は自然界の中で従来の作物とも交配を繰り返していきます。もし、いったん遺伝子組み換えトウモロコシを植えてしまえば、従来のトウモロコシにもその遺伝子組み換えのDNAを持った花粉がついて、交配していきます。それ以前のトウモロコシとは違ったものになっていってしまいます。自然が繰り返す親から子への遺伝子の受け継ぎ(縦の遺伝子変容)と異なり、**人工的に無理矢理、ある生物から別の生物への遺伝子の操作(横の遺伝子変容)には予測のつかない危険がある**と遺伝子研究者のデビッド・スズキ氏は述べて、遺伝子組み換えの危険に警鐘を鳴らしています。